

## 第2戦 たかのこのホテル FUJI GT 300KM RACE 富士スピードウェイ

**予選** 8月 8日(土)

天候:曇り コース状況:ドライ

開幕戦から3週間後、第2戦の舞台は前回に続き富士スピードウェイ(静岡県小山町)。開幕戦同様、無観客での開催となったが、今回は2デイイベントとなった。前回の反省と完走して得たデータをしっかりとこのレースに反映するために、チーム一丸となって上位を目指す。

**予選：1位**



今回のレースも開幕戦同様、無観客、チームスタッフの人数制限、さらには参加者全員がレースの2週間前から毎日症状確認の報告を行う事前の対策とサーキット入場時には検温を行うなど徹底した感染予防対策が実施された。

開幕戦では予選時の路面コンディションの読み間違い、決勝中でのピットワークの遅れなどが重なり、14位フィニッシュと悔しい結果となった。しかし24番グリッドからポジションを10上げて完走する中で、貴重なデータを収集した。このレースはその反省を結果に結びつけたい。

8日朝に行われた公式練習では阪口良平が車両のセットアップに時間を費やした。このセッション、終盤に行われたGT300クラスの専有走行枠では阪口が1分37秒768で4位につけまらずの結果となった。しかしチームはさらに上を目指しセッティングをさらに煮詰めて午後の公式予選に臨んだ。

今回は30台の出走があり、公式予選は前回同様GT300クラスを2グループに分け、我々の6号車はBグループとなった。ノックアウト方式のQ1では各組15台中上位8台に入らなければ、Q2に進出できない。14時48分、薄曇りで気温28℃、路面温度39℃というコンディションで始まった10分間のQ1は、阪口が4周目に1分37秒758で4位につけたが、直後に1台にかわされ5位へ。しかし阪口は次の周で1分37秒441へタイムアップを果たし4位を取り戻し終了(正式結果は3位)。無事Q2へ駒を進めることができた。

15時23分に始まった10分間のQ2では、16台がコースイン。小高はタイヤを温め3周目に1分38秒135で8位につけ、そのままアタックを続けた。その4周目に小高は1分36秒270へ一気にタイムアップを果たし、タイミングモニターのトップに躍り出た。そしてその後もこのタイムは誰にも破られることなく、小高はSUPER GT初となるポールポジションを獲得することとなった。

明日の決勝レースは、13時にスタート予定。参戦2戦目での優勝を目指して、チーム総力を挙げてレースを展開する。



### ドライバー 阪口 良平

「開幕戦はいろいろ噛み合わない部分もあり反省することの多いレースでした。今回は持ち込みの状態から異なる仕様にして僕がセットアップ担当ということで、公式練習ではずっとその作業をやっていましたが、速いクルマに仕上げられたというのはチーム力の賜物だと思います。このクルマは速い場所とそうでない場所があり、速い場所でマージンを稼ぎたいのですが、レースはそううまくものではありません。ピットワークを含めて全力で戦いたと思います」

### ドライバー 小高 一斗

「予選が終わってからも考えられないタイムでしたし、無線が良く聞こえなかったので何位なのか分かりませんでした。僕は予選で乗ってただけ。速いクルマでタイムを出せと言われてそのとおりにタイムが出せポールポジションを獲れてうれしいです。セットアップで悩んでいましたが、それを担当してくれた良平さんとチームに感謝です。開幕戦では影が薄かったですが、決勝レースのペースは悪くありませんでした。スタートからプッシュしてミスなくやればよいなと思います。せっかくポールを獲れたので優勝したいですね。頑張ります！」



### チーフエンジニア 田中 耕太郎

「開幕戦の反省を踏まえて足回りのセッティングを大幅に見直して、タイヤとクルマのマッチングを考えてやっていましたが、午前中はそこそこ見えるところまで行ったので、ドライバーの話を聞いてデータを見ながらセッティングを変更しました。予選はうまくいきました。小高くんが頑張ってくれたのもありました。予選Q2は結構行けそうな手応えはあったのですが、それ以上の結果を出してくれました。明日は阪口さんスタートで行きます。レースはどうなるのかは分かりませんが、タイヤの面でも心配はしていません。展開次第ではそこそこ行けるのかなと思います。頑張ります。」

